

福井 桂子（ふくい・けいこ）

1、プロフィール

詩人。福音館書店に勤務時代、日本文学学校に通い、詩作を始める。詩人で作家の三木卓と結婚。菅原克己主宰の詩誌「P」に創刊号より参加。生涯、同人だった。

<生没>

1935(昭和 10)年1月1日 ~ 2007(平成 19)年9月 26 日

<代表作>

詩集『優しい大工』(思潮社)・『月の車』(思潮社)・『少年伝令』(れんが書房新社)・『鯉』(れんが書房新社)・『浦へ』(れんが書房新社)・『荒屋敷』(書肆ぶりゆにえ)・『風攫いと月』(書肆山田)、『福井桂子全詩集』(かまくら春秋社)、『現代詩文庫 248 福井桂子詩集』(思潮社)。

<青森との関わり>

八戸市八日町の青果物卸商の5女として生まれる。八戸市内の小・中、八戸東高校卒業。

2、作家解説

福井桂子は、昭和 10(1935)年1月1日に八戸市八日町 26 番地の青果物卸商を営む福井常治・ヨ子の八人兄弟姉妹の五女として生まれる。生後7日で、十日市村の大工、林家、チヨ女を乳母として小学校に入学するまで育てられた。八戸市内の小学校・中学校、青森県立八戸東高校を卒業後、東京女子大学文学部西洋史学科卒業。32 年4月に福音館書店に入社。編集部勤務。日本文学学校に通い、菅原克己・針生一郎・長谷川龍生等に出会って詩作を始める。早稲田の「大都会」というレストランでの詩の集まりに参加して三木卓と出会う。「詩組織」(ぶうめらんぐの会)という雑誌を作る。35年に詩人で作家の三木卓(冨田三樹)と結婚。37 年1月に中央公論社に社外校正者として臨時勤務。39 年 10 月に長女真帆を出産。52 年3月に東京から鎌倉に転居。

40年6月から菅原克己主宰の詩誌「P」に創刊号より参加。生涯、同人だった。44年11月に詩集『優しい大工』（思潮社）、47年6月に『月の車』（思潮社）、57年10月20日に『少年伝令』（れんが書房新社）、平成元（1989）年2月に『解』（れんが書房新社）、4年12月15日に『浦へ』（れんが書房新社）、10年4月に『荒屋敷』（書肆ぷりゅにえ）、17年11月30日に『風攫いと月』（書肆山田）を発行。30～40代の頃から童話も執筆している。

14年12月28日に湘南鎌倉病院で大腸腫瘍切除手術を受ける。17年3月に同病院で大腸と脳腫瘍摘出手術を受ける。以後、再発を繰り返す。19年8月に詩誌「スーハ！」第2号で「福井桂子を読む」特集。9月26日、同病院で死去。鎌倉市の浄智寺に埋葬。享年72歳。戒名、英淑院仲秋妙桂大姉。20年3月に詩誌「P」81号で「追悼福井桂子」を特集。21年5月24日に『福井桂子全詩集』（かまくら春秋社）、令和3（2021）年3月31日に思潮社の『現代詩文庫 248 福井桂子詩集』が発行される。

3、資料紹介

○風攫いと月（かぜさらいとつき）

図書

2005（平成17）年11月30日

190mm×130mm

「ある夜の明けるとき美しい夢をみた／そのことだけでも／神さまに感謝しよう」等、童子が精霊と交感しているようだ。スビュチアルで聖句のような詩が編まれている。また自然と対話しているプリミティブな人間の存在が描かれている。